世界気象デー（２０２４年３月２３日）
～２０２４年のテーマは「気候変動対策の最前線」～
“At the Frontline of Climate Action”

世界気象デー2024 のバナー
（出典：WMO 特設ページ）

世界気象機関（WMO）は、1950 年（昭和 25 年）3 月 23 日に世界気象機関条約が発効したことを記念して 3 月 23 日を「世界気象デー」としており、毎年、気象業務への国際的な理解促進のためのキャンペーンを行っています。今年のテーマは「気候変動対策の最前線」で、WMO では、3 月 21 日（木）にスイス・ジュネーブの本部で記念セレモニーを開催する予定です。（詳細は WMO 特設ページ参照）

2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」では、17 の目標のひとつとして「13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」を設定しています。全世界に影響を及ぼす気候変動への対策は、他の全ての目標の基礎となる活動です。世界各国の国家気象機関は、警報・注意報をはじめとした気象・気候情報を提供することで防災や飢餓・貧困の削減、健康の増進に貢献し、各国での気候変動対策の最前線を担うことが期待されています。

日本でも、大雨の頻度や強度が増加しているなど、気候変動の社会的影響が現れてきています。気象庁は、様々な防災気象情報の発表、気候変動の監視・予測に関する情報発信などを通じて社会の気候変動対策に貢献しており、今後も引き続き取り組んでいきます。

なお、WMO には、日本は 1953 年（昭和 28 年）に加盟しました。現在、気象庁は、気象衛星ひまわりの運用や、観測、通信、熱帯低気圧、気候等の様々な分野に関する WMO の地区センターの運用を通じて、各国の気象業務を支援するための情報提供、技術協力等を行っています。アジア地区の主要な国家気象機関のひとつとして、引き続き国際貢献を行っていきます。

ソーシャルメディアで世界気象デーを話題にする場合、ハッシュタグ「#WorldMetDay」をご利用ください。

・WMO 特設ページ（英語）：
https://wmo.int/site/world-meteorological-day-2024

・気象庁特設ページ（日本語）：
https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/kokusai_wmd.html

（2024 年 3 月 18 日　気象庁）

【世界気象機関（WMO）特設ページ（英語）のメッセージの仮訳】
「気候変動対策の最前線」

気候変動は、私たちの文明全体に対する現実的で否定できない脅威です。その影響はすでに目に見えており、私たちが今行動しなければ、壊滅的なものとなります。

2024 年の世界気象デーのテーマは、「気候変動対策の最前線」です。

持続可能な開発目標（SDGs）No.13 は、「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」であり、この目標の進展は、他のすべての SDGs の進展を支えるものです。

WMO 加盟各国の活動は、気候変動対策と SDGs 全体にとって不可欠であり、飢餓と貧困の削減、健康と福祉の向上、きれいな水と安価でクリーンなエネルギーの確保、水中と陸上の生命の保護、気候変動に強い都市とコミュニティの実現など、その活動は社会的に非常に重要です。

気象と気候の予測は、食糧生産を促進し、飢餓ゼロに近づく助けとなります。疫学と気候情報の統合は、気候の影響を受けやすい疾病の理解と管理に役立ちます。また、早期警戒システムは、人々が異常気象に備え、その影響を抑える機会を作ることで、貧困の削減につながります。

WMO とその加盟国、そしてパートナーは、科学から社会に有用な行動を起こすためのサービス提供まで、あらゆるバリューサイクルの推進力となります。また、地球システムに関する知識を深め、気候や水資源の状態を監視し、温室効果ガス排出削減のための科学的情報を提供し、気候変動適応策を支える気候サービスや警報を提供しています。

科学は解決策の中核であり、SDGs の進展を全面的に促進することができます。私たちは科学において団結しています。

WMO は、私たちが協力と革新の旅を受け入れ、集合的な専門知識を活用して課題を克服し、将来の世代のために、より安全で、より強靭な世界という私たちが共有するビジョンを達成するために、気候行動の最前線に立ち続けます。